

東アジアの域内貿易における担い手と役割の変化 1995 年と 2023 年の比較から

大泉 啓一郎

Changes in players and roles in intra-regional trade in East Asia: A comparison between 1995 and 2023

Keiichiro OIZUMI

はしがき

本稿は、1995 年と 2023 年の東アジアの貿易データを用いて、域内貿易における近年の主要な担い手とその役割の変化を整理・分析するものである¹。

東アジアは、20 世紀後半以降、世界において最も急速な経済成長を遂げた地域のひとつである。東アジアの名目 GDP の世界に占めるシェアは 1960 年の 8.9% から 2023 年には 26.0% に上昇した。この地域的な経済成長の実現について、世界銀行は「東アジアの奇跡」として評価し、21 世紀に入ると「東アジアの再興」という視点で将来の課題を検討した。

この経済成長には、輸出志向型工業化が大きく寄与したとされる（末廣 2014、大野ほか 2024）。実際に、東アジアの輸出は 1965 年の 174 億ドルから 2023 年には 7 兆 5500 億ドルに増加し、世界輸出に占めるシェアは 9.2% から 31.7% に急拡大した。当初の輸出先は、主にアメリカや欧州など先進国であったが、時間の経過とともに東アジアに属する国・地域向けの輸出、いわゆる域内貿易が増えた。1965 年の 40 億ドルでしかなかった域内輸出は、2023 年には 3 兆 5840 億ドルに達し、域内輸出比率は 31.5% から 47.5% に上昇した。

域内貿易の活性化には、分業体制の変化も大きく影響している。1980 年代までは垂直貿易や工業製品の産業間貿易が中心であったが、1990 年代以降は中間財の取引が中心となる産業内貿易（工程間分業）が増加した。また、1990 年代までは多国籍企業の国際戦略を反映した「事実上の経済統合」が域内貿易を推進してきたが、2000 年以降は、多くの FTA（自由貿易協定）、EPA（経済連携協

定）が締結・発効され、「制度上の経済統合」が域内貿易の新たな推進力となった（大泉・後藤 2018）。

本稿の構成は以下の通りである。

第 1 節では、本稿の視点を明示し、使用するデータおよび整理・分析方法について説明する。第 2 節では、域内貿易の動向を全製品から概観し、第 3 節では、電子・電機関連製品、第 4 節では繊維衣服関連製品に焦点を当て、具体的な域内貿易の担い手の変化と特徴について述べる。第 5 節では、本稿の結論と今後の研究課題について記す。

本研究は、科研 24K15462「米中貿易摩擦のベトナムおよびタイの貿易に対する影響に関する比較分析」（代表者 宮島良明）の支援を受けたものである。

第 1 節 本稿の視点と活用データと整理・観察の方法

1. 本稿の視点

本稿は、東アジアの域内貿易データを整理・分析するに際して、以下の 3 つの視点を重視した。

第 1 は、中国と ASEAN の台頭に関する評価である。表 1 は、東アジアの名目 GDP を 100 とした場合に日本、韓国・香港・台湾、中国、ASEAN のそれぞれが占める割合を示したものである。1995 年と 2023 年の数値を比較すると、地域全体において勢力が大きく変化していることがわかる。中国の名目 GDP が東アジアに占める割合は 1995 年の 9.1% から 2023 年には 62.5% に劇的に増加し、ASEAN のそれも 9.1% から 12.8% に拡大した。他方、日本は 69.4% から 14.9% に大幅に縮小し、韓国・台湾・香港の合算値は 2005 年には 15.5% に上昇したものの、その後低下し、2023 年には 9.8% に縮小している。あたかも中国と日本、ASEAN と韓国・台湾・香港の立ち位置が逆転したような構成となっている。

第 2 は、ASEAN 加盟国の国単位でのパフォーマンスである。これまで、域内貿易の議論は、ASEAN 全体を

¹ 本稿の東アジアは、日本、中国、韓国、台湾、香港、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの 15 カ国・地域とする。

表1 東アジアの GDP の内訳

	日本	韓国・台湾・香港	中国	ASEAN
1995	69.4	12.4	9.1	9.1
2000	62.9	13.7	15.3	8.2
2005	50.3	15.5	23.8	10.3
2010	36.9	11.6	38.6	12.9
2015	21.8	11.3	54.5	12.4
2023	14.9	9.8	62.5	12.8

(資料) IMF World Economic Outlook, Apr. 2024 より筆者作成。

一括りにした分析が主流であった。たしかに、2015年にASEAN 共同体が結成され、ASEAN という地域単位での評価は重要である。しかし ASEAN 加盟各国の経済発展の程度には大きな格差があり、そのパフォーマンスは当然異なる。そこで本稿では、ASEAN 各国が域内貿易のなかでどのように役割を変えたのかに焦点を当てる。これは、各国の今後や ASEAN 共同体の未来を考える上で重要な視点である。

第3は、取引財ごとの評価である。東アジアの域内貿易については、総額の変化だけでなく、完成品や原料・中間財（部品や加工品）などの財の性質に着目した分析が増加している。本稿では、とくに原材料・中間財と完成品の区分が比較的容易な電子電機製品と繊維衣服製品を取り上げ、整理・分析をした。表2は、全品目および電子電機関連製品の完成品と部品、繊維衣服関連製品の完成品と原材料の輸出入比率を整理したものである。それぞれ異なった動きを示していることがわかる。たとえば、全品目では域内比率は輸出入ともに比較的安定的に推移しているのに対して、電子電機関連製品については完成品と部品は、輸出入比率ともに上昇傾向にあり、輸入比率は高水準にあるという特徴を持つ。他方、繊維衣服関連製品については、完成品と原材料はともに輸出比率は低下しているものの、輸入比率では完成品は低下傾向、原材料は上昇傾向にあるという特徴がある（詳細は後述）。このように取り上げる財によって域内貿易の変化と特徴が異なる。

2. データと整理・分析の方法

本稿で使用するデータは UNCTADstat である²。

対象国・地域は、日本、韓国、中国、台湾、香港、ASEAN（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）の15カ国・地域である。

対象品目は、1) 全品目、2) 電子電機完成品、3) 電子電機部品、4) 繊維衣服完成品、5) 繊維衣料原材料とした。これらに含まれる品目（SITC コード）は以下の通りである。

電子電機完成品：751、752、761、762、763、775

電子電機部品：759、764、772、776

繊維衣服完成品：84

繊維衣服原材料：26、65

観察年は1995と2023年とした。

各節のデータの整理・分析は以下の3つに区分される。

- 1) 域内外貿易の概要：輸出入総額の変化、世界に占めるシェアを算出し、世界における東アジアの立ち位置を確認する。また、域内外に区分した輸出入総額とその比率から担い手の変化を確認する。
- 2) 域内輸出の内訳：1995年と2023年の取引額上位の組み合わせを示し、域内取引の担い手が具体的にどのように変化したかを確認する。その際、ASEAN 全体と ASEAN 国別に区分して考察を加えた。また、2015年から2023年の増加額上位取引を整理することで、近年の変化を示した。本稿ではA国・地域からB国・地域への輸出をA→Bで示した。
- 3) 各国の域内比率の変化：1995年と2023年の東アジア各国の域内輸出比率と域内輸入比率を整理するとともに、図1のように各国をプロットし、東アジアの域内貿易の状況を鳥瞰できるようにした。たとえば、A国のB財の貿易が、1995年には第1象限に位置したとする（図の○）。この場合、A国のB財は、域内輸出比率と域内輸入比率がともに高く、その取引が域内を中心に行われていることを示す。それが2023年に第4象限に位置を変えたとする（図の●）。第4象限は、域内輸出比率が低く（域外輸出比率が高く）、域内輸入比率は高いことを示す。すなわちA国のB財の輸入は主に域内から賄われるが、A国で生産されたB財の多くは域外に輸出されるようになったことを示す。

東アジア各国・地域の域内輸出比率、域内輸入比率は表13、表14を参照。

なお、○は1995年●は2023年の状況を示す。各国の略称は以下の通り。BRU：ブルネイ、CAM：カンボジア、INO：インドネシア、LAO：ラオス、MAL：マレーシア、MYA：ミャンマー、PHI：フィリピン、SIN：シンガポール、THA：タイ、VIE：ベトナム、PRC：中国、HKG：香港、TAP：台湾、KOR：韓国、JPN：日本

² 本稿で使ったデータは、すべて <https://unctad.org/statistics> からダウンロードできる。

表 2 東アジアの域内比率

(%)

	全品目		電子電機関連製品				繊維衣服関連製品			
			完成品		部品		完成品		原材料	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
1995	49.2	51.3	28.1	75.6	51.8	67.0	36.4	82.8	67.2	68.6
1996	50.0	50.5	28.5	75.2	54.1	64.8	37.3	82.6	67.8	68.1
1997	48.9	50.7	25.6	74.3	54.7	63.9	39.2	84.5	65.6	68.9
1998	42.5	51.7	21.5	76.0	52.1	63.8	34.5	85.0	61.2	70.0
1999	44.7	53.5	23.8	77.6	54.8	65.9	34.5	88.8	61.5	73.4
2000	47.6	55.0	27.3	79.6	57.2	68.8	34.8	89.8	61.6	76.4
2001	47.6	54.2	28.7	77.8	60.2	69.5	35.3	89.5	60.8	74.6
2002	49.2	56.5	29.8	81.7	64.7	73.9	34.9	88.9	60.0	75.9
2003	50.7	57.7	31.6	85.0	66.5	77.4	34.4	89.1	58.6	74.9
2004	51.2	58.0	32.1	87.0	64.8	79.1	33.5	89.2	56.7	72.1
2005	50.6	57.8	33.0	87.4	64.8	81.0	27.8	89.4	54.3	72.8
2006	49.8	57.2	33.0	87.7	65.0	81.8	26.2	89.5	52.8	71.4
2007	49.0	56.7	33.5	88.6	66.2	82.5	24.7	89.1	50.4	72.2
2008	48.5	53.2	33.3	89.3	65.6	82.4	23.2	88.0	47.4	72.1
2009	50.0	55.1	33.6	89.9	68.1	83.7	24.2	88.6	47.7	74.1
2010	51.0	54.8	34.4	91.5	68.0	84.6	22.6	87.5	46.6	69.6
2011	51.4	52.0	35.5	91.8	68.1	85.2	23.8	85.4	45.5	65.4
2012	52.2	51.7	36.5	92.0	70.9	85.7	26.6	84.3	45.2	64.1
2013	53.1	50.9	35.6	91.7	72.0	85.6	27.9	83.2	45.6	65.8
2014	51.6	51.5	34.4	91.2	70.8	86.2	25.5	81.2	44.5	69.3
2015	50.6	56.0	34.9	91.4	70.5	87.7	25.0	80.5	44.9	71.6
2016	50.6	57.1	35.8	90.9	69.8	87.6	25.4	79.9	45.4	74.1
2017	50.9	55.8	34.4	90.3	70.3	87.7	25.4	79.2	45.1	73.0
2018	51.2	54.5	35.2	89.5	69.7	87.7	26.2	78.4	44.6	71.7
2019	50.5	54.4	34.4	89.6	69.4	86.8	26.0	77.0	43.7	73.6
2020	50.6	57.0	32.6	90.3	70.8	86.6	26.0	76.5	36.4	75.6
2021	50.2	55.7	32.6	91.8	71.3	88.2	23.5	74.3	40.7	73.4
2022	48.7	53.2	31.9	90.9	68.7	87.3	24.8	74.0	40.2	72.1
2023	47.5	52.3	32.0	90.6	67.6	87.2	25.6	72.7	39.8	72.6

(資料) UNCTADstat より筆者作成。

第2節 域内貿易の全体像（全品目）

1. 域内外貿易の概要

東アジアにおける全品目の輸出額は1995年の1兆3230億ドルから2023年には7兆5470億ドルに大幅に増加した。世界輸出に占めるシェアも25.8%から32.0%に上昇した。同様に、輸入額も1兆2580億ドルから6兆

6690億ドルに増加し、シェアは24.2%から27.9%に上昇した。東アジア全体でみた貿易収支は、1995年以降一貫して黒字を維持しており、黒字幅は660億ドルから8610億ドルに増加した。

輸出を域内外に区分すると、域外輸出額は、1995年の6720億ドルから2023年には3兆9720億ドルに増加した。これに対し、域内輸出額は6510億ドルから3兆5750億ドルに増加した。期間を通じて域内外の輸出額はほぼ同額であり、域内輸出比率は1995年が49.2%、2023年が47.5%であり、年による変動はあるものの、比較的安定的に推移している（前掲表2）。

輸入では、域外輸入額は1995年の6100億ドルから2023年は3兆1570億ドルに増加し、域内輸入額も同様に6480億ドルから3兆5280億ドルに増加した。域内輸入比率は1995年が51.5%で2023年が52.8%であり、こちらも安定的に推移している。

東アジアの輸出入は、域内外ともに偏りなく拡大が続いているものの、担い手は大きく変化している。域外輸出のシェアをみると、1995年には日本（37.9%）、香港（12.8%）、韓国（12.8%）が高かったのに対して、2023年は中国（55.6%）、日本（9.2%）、韓国（8.4%）が高く、

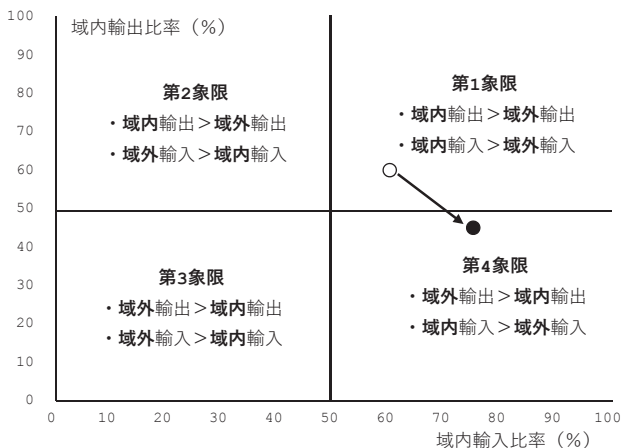


図1 域内比率の変化

(資料) UCTADstat より筆者作成。

表3 東アジア域内貿易上位5取引（全品目）と近年の増加額

(%)

(100万ドル)

1995				2023			2015-2023			
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	日本	ASEAN	13.4	中国	ASEAN	12.0	1	ASEAN	中国	193,518
2	中国	香港	10.8	ASEAN	中国	11.1	2	中国	ASEAN	190,769
3	ASEAN	ASEAN	10.5	ASEAN	ASEAN	10.4	3	ASEAN	ASEAN	110,014
4	ASEAN	日本	7.5	中国	香港	7.5	4	台湾	中国	56,140
5	中国	日本	5.6	台湾	中国	5.7	5	中国	韓国	53,003

(注) 輸入データから作成

(資料) UNCTADstat より筆者作成

表4 東アジア域内貿易上位10取引と近年の増加額

(%)

(100万ドル)

	1995			2023				2015-2023		
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	中国	香港	10.8	中国	香港	7.5	1	ベトナム	中国	62,304
2	中国	日本	5.6	台湾	中国	5.7	2	中国	ベトナム	58,928
3	日本	韓国	5.1	中国	日本	4.8	3	台湾	中国	56,140
4	日本	台湾	4.7	韓国	中国	4.6	4	インドネシア	中国	54,280
5	日本	中国	4.5	日本	中国	4.6	5	中国	韓国	53,003
6	日本	香港	4.5	中国	韓国	4.1	6	マレーシア	中国	49,628
7	日本	シンガポール	4.0	中国	ベトナム	3.1	7	中国	インドネシア	33,634
8	日本	タイ	3.4	中国	中国	3.0	8	中国	台湾	32,607
9	日本	マレーシア	3.3	マレーシア	中国	3.0	9	中国	タイ	32,139
10	マレーシア	シンガポール	2.7	ベトナム	中国	2.6	10	台湾	香港	31,323

(注) 輸入データから作成

(資料) UNCTADstat より筆者作成

日本と中国の立場が逆転した。他方、域内輸入についても、1995年が日本（28.9%）、香港（13.5%）、中国（13.0%）が高かったのに対して、2023年は中国（32.8%）、香港（11.6%）、日本（9.9%）と日本と中国の順番が入れ替わっており、中国の急成長と日本の相対的後退が顕著である。

2. 域内貿易の内訳

次に各国・地域の取引額から域内貿易の構成変化を検討する。

表3は域内貿易額が多いものから上位5組み合わせを整理したものである。

1995年に最も多かったのは日本→ASEANで、域内貿易の13.4%を占めた。次いで中国→香港（10.8%）、ASEAN→ASEAN（10.5%）、ASEAN→日本（7.5%）、中国→日本（5.6%）の順であった。この上位5組み合わせだけで47.8%を占め、構成国・地域は、ASEANが4、日本が3、中国が2、香港が1となっていた。

一方で、2023年に最も多かったのは中国→ASEAN（12.0%）で、以下ASEAN→中国（11.1%）、ASEAN→ASEAN（10.4%）、中国→香港（7.5%）、台湾→中国（5.7%）の順となった。この上位5組み合わせで46.7%を占め、構成国・地域は、ASEANが4、中国が4、香港と台湾が1となった。

ASEANを国別に分類してランキングを再編すると、1995年では、第7位に日本→シンガポール、第8位に日

本→タイ、第9位に日本→マレーシアがあり、日本がシンガポール、タイ、マレーシアというASEAN諸国への輸出が多かったことがわかる（表4）。この傾向はプラザ合意以降の日本企業による東南アジア進出本格化と合致する動きである。これに対して、2023年は第7位に中国→ベトナム、第9位マレーシア→中国、第10位ベトナム→中国が入り、とくに中国とベトナムの関係が強化されていることがわかる。

次に近年の域内貿易の変化を捉えるために、2015年から2023年の取引の増加額を算出すると、第1位がベトナム→中国、第2位が中国→ベトナムとなり、2010年代後半に中国とベトナムの関係が急速に強化されていることが見て取れる（表4の右欄）。さらに、第4位インドネシア→中国、第7位に中国→インドネシアなど、中国とインドネシアの関係が強まっていることが確認できる。

3. 各国の域内比率の変化

次に各国の域内比率の変化を分析する。

1995年の域内輸出比率ではブルネイが94.8%で最も高く、次いでカンボジア（69.8%）、ミャンマー（66.5%）の順になっている。ブルネイの輸出の53.1%は日本向けである。他方、域内輸出比率が低い国は、フィリピン（41.1%）、日本（42.4%）、韓国（47.0%）である。

これに対して、2023年の域内輸出比率は、ラオス（84.7%）が最も高く、次いで香港（72.0%）、ブルネイ（71.1%）が高い。ちなみに、ラオスの輸出は中国向けが

35.5%、タイ向けが30.4%と、この2カ国だけで65.9%を占める。他方、域内輸出比率が最も低いのはカンボジア（31.4%）で、中国（34.7%）、ベトナム（44.8%）となっている。

カンボジアの域内輸出比率は1995年の69.8%から2023年に35.5%へと大幅に低下した。これは域外輸出が同期間に2億6000万ドルから147億5000万ドルへと57倍以上に増加したためであり、なかでも米国向けが1500万ドルから74億9500万ドルと劇的に増加したことが寄与した。これは、東アジアのサプライチェーンがカンボジアに拡大し、同国からアメリカ向けの完成品の輸出する機会が増えたことを背景とする（後述）。

一方、域内輸入比率は、1995年に最も高かったのはミャンマー（89.0%）で、次いでカンボジア（87.9%）、ラオス（87.0%）の順になっており、いずれも大陸東南アジア諸国である。これらの国では中国、タイからの輸入が多い。他方、域内輸入比率が最も低いのは日本（35.4%）、韓国（39.6%）、台湾（48.4%）であり、これらの国・地域は輸出入ともに域外（主にアメリカ）との関係が強かったことが原因している。

これに対して、2023年の域内輸入比率をみると、ラオス（95.7%）、カンボジア（93.3%）、ミャンマー（89.0%）と高く、その水準は上昇した。他方、域内輸入比率が最も低いのは中国（40.2%）で、韓国（46.1%）、日本（46.5%）も低水準にあるものの、中国が域外からの輸入を増加させており、中国が世界のアブソーバーとしての機能を高めていることがわかる。

1995年と2023年を比較すると、多くの国・地域が第1象限（域内輸出比率＞域外輸出比率、域内輸入比率＞域外輸入比率）に位置している（図2）。また域内輸入比率が上昇する方向へと動いていることも確認できる。そのなかでカンボジアとベトナムが域内輸出比率を低下させ、逆にラオスが域内輸出比率を高めているなどの動き

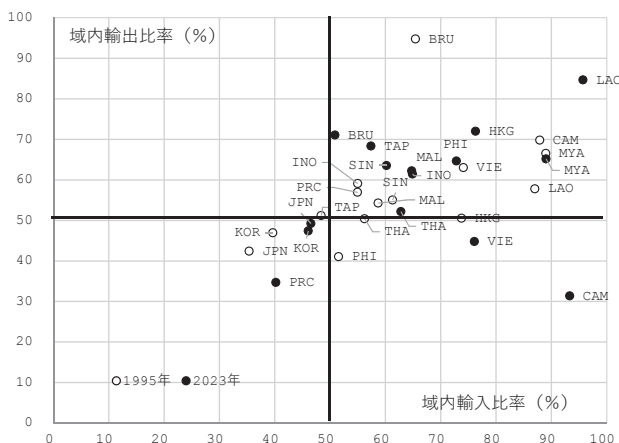


図2 域内輸出入比率（全品目）

（資料）UNCTADstatより筆者作成。

も観察できる。また中国は域内輸出入比率をともに低下させているが、これは域外輸出入でのプレゼンスを高めていることに起因する。

第3節 電子電機機器製品

域内貿易でもっとも注目を集めているのは電子電機機器の生産ネットワークである。

1. 電子電機機完成品

1) 域内外貿易の概要

UNCTADは電子電機関連製品については完成品と部品に区分して集計している。本節ではまず完成品の貿易動向を分析する。

東アジアの電子電機完成品の輸出額は1995年の1228億ドルから2023年には4050億ドルに増加した。世界輸出に占めるシェアは49.0%から57.0%に上昇し、同地域の競争力が高まっていることがわかる。一方、輸入額は620億ドルから1580億ドルに増加したものの、輸出額を大きく下回る。また、世界輸入に占めるシェアも小さく、かつ23.8%から21.0%に低下した。その結果、東アジア全体の収支黒字幅は610億ドルから2470億ドルに増加した。

輸出を域内外に区分すると、域外輸出額は、1995年の880億ドルから2023年に2760億ドルへ、域内輸出額は、360億ドルから1300億ドルへと増加した。域内輸出比率は1995年の28.1%から2023年に32.0%に上昇した（前掲表2）。

輸入では、域外輸入額は1995年の148億ドルから2023年は149億ドルとほぼ横ばいである一方、域内輸入額は470億ドルから1430億ドルに大幅に増加した。域内輸入比率は1995年の76.0%から2023年が90.6%に上昇しており、域内需要の大部分を域内からの輸入で賄う構造が形成されている。

担い手では、域外輸出のシェアを高いものから、1995年が日本（28.7%）、シンガポール（23.0%）、香港（11.0%）の順になっており、日本とNIEsが中心であった。ところが、2023年は中国（70.7%）が圧倒的なシェアを占め、タイ（5.3%）、香港（5.0%）が続く。日本のシェアは1.7%と低く、競争力の後退が顕著である。

域内輸出については、1995年ではシンガポール（22.3%）、日本（19.8%）、マレーシア（11.3%）が高く、日本とASEAN諸国が主要な輸出国であった。それが、2023年になると、中国（56.9%）、香港（13.4%）、タイ（6.6%）となり、中国が域内取引の中心となっている。中国が域内外輸出において電子電機完成品で圧倒的存在感を示すようになったことが示された。

2) 域内貿易の内訳

次に域内貿易の内訳を各国・地域の取引額から分析する。

1995年に最も多かったのは中国→香港（19.3%）であり、次いでASEAN→日本（15.6%）、ASEAN→ASEAN（13.0%）、ASEAN→香港（7.1%）、日本→ASEAN（7.0%）の順になっている（表5）。この上位5組み合わせだけで62.0%を占め、構成国・地域は、ASEANが5、日本と香港が2、中国が1であった。とくにASEANのプレゼンスが高かった。

これに対して、2023年は中国→ASEAN（15.5%）が最も多く、以下中国→日本（14.0%）、中国→香港（12.3%）、ASEAN→中国（10.5%）、台湾→中国（7.9%）の順となった。この上位5組み合わせで60.2%を占め、構成国・地域は、中国が5、ASEANが2、香港と台湾、日本が1となり、域内の取引の中心が中国にシフトしていることが確認できる。

ASEANを国別に分類してランキングを再編すると、1995年では第2位にシンガポール→日本（7.0%）、第4位にマレーシア→シンガポール（6.0%）、第5位に日本→シンガポール（5.1%）、第7位にシンガポール→香港（4.5%）、第8位にマレーシア→日本（3.8%）、第9位にタイ→シンガポール（3.8%）、第10位にタイ→日本（3.1%）がランクインしており、日本とASEAN諸国との関係が強かったことがわかる（表6）³。

2023年になると、ASEAN諸国でランキングされたのは、第6位のタイ→中国（4.3%）、第7位に中国→シンガポール（3.8%）、第8位に中国→タイ（3.3%）、第10位にベトナム→中国（2.9%）となり、域内の電子電機完成品の取引が日本とASEANから中国を中心としたものへの移行が確認できる。

近年の域内貿易の変化を2015年から2023年の取引の増加額からみると、第1位が台湾→中国、第2位が中国→韓国と北東アジア内での取引が目立つが、第3位が中国→ベトナム、第5位が中国→タイ、第6位が中国→インドネシアがランクインしており、中国の電子電機完成品のASEAN向け輸出が増加していることがわかる（表6の右欄）。また、第7位のベトナム→韓国、第8位のベトナム→中国、第9位のタイ→中国からは、中国と韓国の生産拠点の移転に伴う逆輸入的な輸出の増加を示している。

3) 各国の域内比率

次に各国の域内比率の考察をみる。

1995年の域内輸出比率ではベトナム（85.8%）と最も高く、次いでブルネイ（62.4%）、フィリピン（56.6%）の順である⁴。他方、域内輸出比率が最も低いのは日本（21.2%）で、韓国（21.9%）、台湾（26.1%）であった。

表5 東アジア域内貿易上位5取引（電子電機完成品）と近年の増加額
（%）

1995				2023			2015-2013			
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	中国	香港	19.3	中国	ASEAN	15.5	1	台湾	中国	8,876
2	ASEAN	日本	15.6	中国	日本	14.0	2	中国	ASEAN	8,193
3	ASEAN	ASEAN	13.0	中国	香港	12.3	3	中国	韓国	3,324
4	ASEAN	香港	7.1	ASEAN	中国	10.5	4	ASEAN	中国	2,578
5	日本	ASEAN	7.0	台湾	中国	7.9	5	ASEAN	韓国	2,188

（注） 輸入データから作成

（資料） UNCTADstat より筆者作成。

表6 東アジア域内貿易上位10取引（電子電機完成品）と近年の増加額
（%）

1995				2023			2015-2023			
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	中国	香港	19.3	中国	日本	14.0	1	台湾	中国	8,876
2	シンガポール	日本	7.0	中国	香港	12.3	2	中国	韓国	3,324
3	日本	香港	6.7	台湾	中国	7.9	3	中国	ベトナム	2,027
4	マレーシア	シンガポール	6.0	中国	韓国	6.6	4	台湾	香港	2,022
5	日本	シンガポール	5.1	中国	中国	5.8	5	中国	タイ	1,805
6	台湾	日本	4.7	タイ	中国	4.3	6	中国	インドネシア	1,613
7	シンガポール	香港	4.5	中国	シンガポール	3.8	7	ベトナム	韓国	1,608
8	マレーシア	日本	4.5	中国	タイ	3.3	8	ベトナム	中国	1,592
9	タイ	シンガポール	3.8	中国	台湾	3.0	9	タイ	中国	1,488
10	タイ	日本	3.1	ベトナム	中国	2.9	10	中国	台湾	1,387

（注） 輸入データから作成

（資料） UNCTADstat より筆者作成。

³ 表中の中国→中国は、中国国内にある経済特別区・保税區から本国への輸入と考えられる。

これに対して、2023 年になると域内輸出比率は、ブルネイ（74.6%）、香港（55.5%）、シンガポール（55.4%）が高く、とくにシンガポールや香港が域内輸出の重要な担い手になっていることは注目される。もっとも域内輸出比率は低い、前述の通り金額では中国は圧倒的に多いことには注意したい。他方、域内輸出比率が最も低いのはカンボジア（5.6%）、台湾（17.9%）、ミャンマー（20.3%）となっている。カンボジアとミャンマーの輸出額は少額であるものの、簡易な電子電機製品の生産が始まったこと、台湾においては、米中貿易摩擦の影響で米国への輸出拠点を中国から移転したことが推察される。

一方、域内輸入比率は、1995 年に最も高かったのはカンボジア（98.7%）で次いでミャンマー（97.1%）、ラオス（96.8%）で、いずれも大陸東南アジア諸国であった。他方、域内輸入比率が最も低いのは韓国（53.5%）、タイ（63.8%）、日本（64.2%）であったが、いずれも 50%を上回っており、域内が主たる輸入先であることに変わりはない。

2023 年の域内輸入比率をみると、ミャンマー（97.9%）、ラオス（97.7%）、ベトナム（93.8%）であり、いずれも大陸東南アジア諸国である。他方、域内輸入比率が最も低い国・地域をみてもシンガポール（81.0%）、ブルネイ（86.7%）、台湾（88.9%）といずれも 80%を上回っており、東アジアのすべての国・地域で電子電機完成品の域内輸入が圧倒的に多いと評価するべきである。

1995 年と 2023 年を比較すると、ほとんどの国・地域が第 4 象限（域外輸出比率＞域内輸出比率、域内輸入比率＞域外輸入比率）に集中しており、かつ全体として域

内輸入比率が高くなっていることが確認できる（図 3）。このことは東アジアにおける電子電機製品の完成品の自給率が高いことを示すものである。

2. 電子電機部品

1) 域内外貿易の概要

次に電子電機部品について検討する。

東アジアの電子電機部品の輸出額は 1995 年の 2390 億ドルから 2023 年には 1 兆 7430 億ドルに増加した。世界輸出に占めるシェアは、50.4%から 72.3%に上昇し、東アジアは電子電機部品の世界への供給地となっていることが明らかである。他方、輸入額も 1820 億ドルから 1 兆 4200 億ドルに増加し、世界に占めるシェアは同期間に 38.3%から 53.9%に上昇した。東アジア全体でみると電子電機部品の貿易収支は黒字で、黒字幅は 570 億ドルから 3240 億ドルに増加した。

輸出を域内外に区分すると、域外輸出額は、1995 年の 1150 億ドルから 2023 年に 5650 億ドルに増加したのに対し、域内輸出額は、1240 億ドルから 1 兆 1780 億ドルに飛躍的に増加した。その結果、域内輸出比率は 1995 年の 51.8%から 2023 年に 67.6%に上昇した（前掲表 2）。

輸入では、域外輸入額は 1995 年の 600 億ドルから 2023 年は 1410 億ドルに増加したのに対して、域内輸入額は 1220 億ドルから 1 兆 2790 億ドルに増加した。域内輸入比率は 1995 年が 67.0%から 2023 年には 87.2%に上昇した。ほとんどの電子電機部品が東アジア内で調達されていることがわかる。

次に担い手をみると、域外輸出のシェアでは 1995 年が日本（39.4%）、シンガポール（14.0%）、台湾（11.0%）が上位を占めており、日本と NIEs がその中心であった。しかし、2023 年は中国（46.7%）、香港（12.3%）、ベトナム（10.7%）が上位を占めるようになった。中国はもちろん、ベトナムの躍進も際立っている。

他方、域内輸出についても、1995 年には日本（33.5%）、シンガポール（15.3%）、香港（12.6%）が主導し、中国のシェアは 4.8%でしかなかった。それが、2023 年になると、中国（24.8%）、香港（21.4%）、台湾（15.2%）が上位を占め、日本のシェアは 4.4%に後退した。これは、東アジアにおける電子電機完成品の生産拠点を日本から部品供給を行うという形態は縮小したことを示す。

2) 域内貿易の内訳

次に域内貿易の構造を各国・地域の取引額から分析する。

1995 年に最も多かったのは日本→ASEAN（17.2%）、次いで ASEAN→ASEAN（16.1%）、日本→香港（6.2%）、日本→台湾（5.8%）、中国→香港（4.9%）の順になっている（表 7）。この上位 5 組み合わせだけで 50.2%を占め、構成国・地域は、日本と ASEAN が 3、香港が 2、中国と台湾が 1 であった。日本が東アジアの重要な部品供給

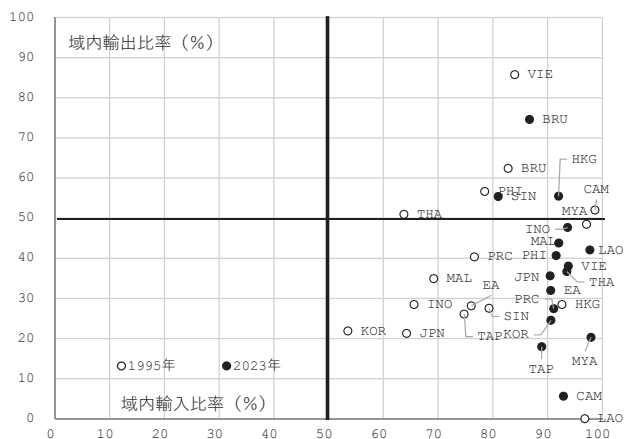


図 3 域内輸出入比率（電子電機完成品）

（資料） UCTADstat より筆者作成。

⁴ これらの国が上位にランキングされるのは、いずれも輸出額はいずれも少額にとどまっていること、ほかの国の電子電機製品の輸出が主に域外向けであったために高いためと考えられる。

国であったことが読み取れる。

これに対して、2023 年は台湾→中国（11.9%）、中国→香港（11.7%）、中国→ASEAN（7.6%）、ASEAN→中国（7.2%）、韓国→中国（6.7%）の順となった。この上位 5 組み合わせで合計は 45.1%であり、1995 年に比べて取引先が分散している。上位 5 取引の構成国・地域は、中国が 5 とすべてに関わっており、ほか ASEAN が 2、韓国、香港、台湾が 1 であり、上位 10 取引に拡大しても日本がランクインしていない。

ASEAN を国別に分類してランキングを再編すると、1995 年では第 1 位が日本→シンガポール（7.8%）、第 4 位にマレーシア→シンガポール（5.8%）、第 5 位に日本→マレーシア（5.5%）、第 10 位にシンガポール→マレーシア（3.4%）であり、日本と ASEAN、とくにシンガポール、マレーシアで電子電機部品のネットワークが形成されていることが示唆される（表 8）。

一方、2023 年になると、ASEAN でランキングされたのは、第 6 位の台湾→シンガポール（11.6%）だけであり、電子電機部品の域内ネットワークが日本・ASEAN から中国・香港・韓国・台湾が中心となったものに変ったことがわかる。

近年の域内貿易の変化を 2015 年から 2023 年の取引の増加額からみると、第 1 位が台湾→中国、第 2 位が台湾→香港と北東アジア間の取引であるが、第 3 位がベトナム→中国、第 5 位が台湾→シンガポール、第 6 位が中国

→ベトナム、第 7 位が韓国→ベトナムとなっており、電子電機部品におけるベトナムの存在感が高まっている（表 8 の右欄）。

3) 各国の域内比率の変化

次に各国の域内比率の変化を考察する。

1995 年の域内輸出比率ではミャンマー（87.5%）、ベトナム（84.8%）、カンボジア（81.2%）が多い。これらの国の輸出額自体はいずれも少額にとどまる。他方、域内輸出比率が最も低いのはラオス（2.4%）で、フィリピン（42.8%）、台湾（45.7%）であり、ラオスは別として、これら 2 国はアメリカへの輸出が多いことに起因している。

これに対して、2023 年になると域内輸出比率は、ミャンマー（89.5%）、台湾（84.2%）、シンガポール（81.7%）となっている。1995 年に域外輸出が中心であった台湾は現在では域内に電子電機部品を多く輸出するようになっている。これは東アジアにおける電子電機部品の需要が増加し、かつ要求する部品の質も向上していることを示している。他方、域内輸出比率が低いのはカンボジア（7.4%）、ベトナム（46.4%）、中国（52.5%）である。

一方、域内輸入比率は、1995 年に最も高かったのは、香港（77.9%）、シンガポール（76.1%）、ベトナム（72.6%）となっている。他方、域内輸入比率が低い国・地域はブルネイ（42.6%）、カンボジア（47.9%）、日本（50.9%）で、ブルネイ、カンボジアは少額であるので重要ではな

表 7 東アジア域内貿易上位 5 取引（電子電機部品）と近年の増加額

(%)

(100 万ドル)

	1995			2023				2015-2013		
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	日本	ASEAN	17.2	台湾	中国	11.9	1	台湾	中国	64,010
2	ASEAN	ASEAN	16.1	中国	香港	11.7	2	中国	ASEAN	42,476
3	日本	香港	6.2	中国	ASEAN	7.6	3	台湾	ASEAN	41,488
4	日本	台湾	5.8	ASEAN	中国	7.2	4	台湾	香港	30,328
5	中国	香港	4.9	韓国	中国	6.7	5	ASEAN	香港	27,443

(注) 輸入データから作成

(資料) UNCTADstat より筆者作成。

表 8 東アジア域内貿易上位 10 取引（電子電機部品）と近年の増加額

(%)

(100 万ドル)

	1995			2023				2015-2023		
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	日本	シンガポール	7.8	台湾	中国	11.9	1	台湾	中国	64,010
2	日本	香港	6.2	中国	香港	11.7	2	台湾	香港	30,328
3	日本	台湾	5.8	韓国	中国	6.7	3	ベトナム	中国	24,649
4	マレーシア	シンガポール	5.8	中国	中国	5.9	4	中国	台湾	20,949
5	日本	マレーシア	5.5	台湾	香港	4.7	5	台湾	シンガポール	19,582
6	中国	香港	4.9	台湾	シンガポール	3.0	6	中国	ベトナム	18,975
7	日本	韓国	4.8	中国	韓国	3.0	7	韓国	ベトナム	18,330
8	日本	中国	4.2	中国	台湾	2.9	8	中国	韓国	13,032
9	韓国	日本	3.4	中国	日本	2.7	9	韓国	台湾	12,872
10	シンガポール	マレーシア	3.4	日本	中国	2.7	10	中国	香港	12,233

(注) 輸入データから作成

(資料) UNCTADstat より筆者作成。

いが、日本のそれが低いことの原因は改めて検討して見る必要がある。

これに対して、2023年の域内輸入比率をみると、カンボジア（98.0%）、ラオス（95.8%）、香港（94.0%）が高い。他方、域内輸入比率が低いのはブルネイ（76.4%）、マレーシア（80.0%）、フィリピン（82.0%）であるが、ブルネイは少額であり、マレーシアやフィリピンはアメリカの電子電機部品メーカーが多いことに原因する。

1995年と2023年を比較すると、多くの国・地域が第1象限（域内輸出比率＞域内輸出比率、域内輸入比率＞域外輸入比率）に集中しており、かつ全体として輸入比率が上昇していることが確認できる（図4）。これは、東アジアにおける電子電機製品部品の自給率が向上していることを示している。

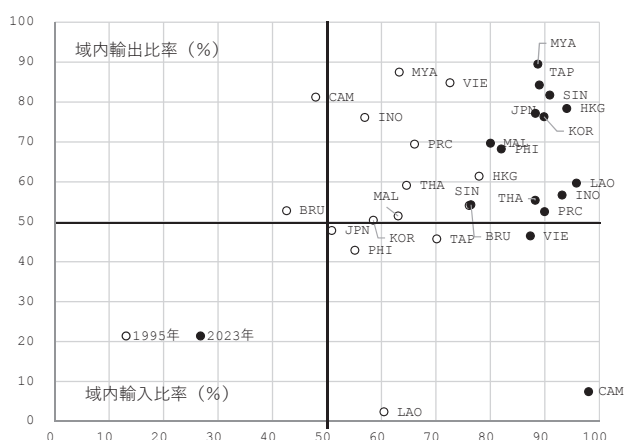


表9 東アジア域内貿易上位5取引（繊維衣料完成品）と近年の増加額

（％）

（100万ドル）

	1995			2023				2015-2023		
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	中国	香港	37.1	中国	日本	26.5	1	ASEAN	日本	2,376
2	中国	日本	34.9	ASEAN	日本	17.2	2	ASEAN	韓国	2,091
3	韓国	日本	6.1	ASEAN	韓国	11.3	3	ASEAN	中国	1,274
4	ASEAN	日本	5.2	中国	ASEAN	9.5	4	中国	ASEAN	786
5	ASEAN	ASEAN	3.3	中国	韓国	8.1	5	ASEAN	ASEAN	765

（注）輸入データから作成

（資料）UNCTADstat より筆者作成。

一方、域内輸出については、1995年は香港（38.6%）、中国（21.4%）、タイ（9.1%）が主な輸出国・地域であり、ASEAN諸国ではタイが大きな役割を果たしていた。それが、2023年になると、中国（69.2%）が圧倒的に多い構造に変わり、以下、ベトナム（13.5%）、カンボジア（4.1%）がこれ続く。

2) 域内貿易の内訳

次に域内貿易の構造を各国・地域の取引額から分析する。

1995年に最も多かった取引は中国→香港（37.1%）、中国→日本（34.9%）で、この上位2取引で72%を占めた（表9）。次いで韓国→日本（6.1%）、ASEAN→日本（5.2%）、ASEAN→ASEAN（3.3%）の順であり、この上位5組み合わせだけで86.6%を占めていた。構成国・地域は、日本とASEANが3、中国が2、香港と韓国が1であった。

これに対して、2023年は中国→日本（26.5%）が最も高く、次いでASEAN→日本（17.2%）、ASEAN→韓国（11.3%）、中国→ASEAN（9.5%）、中国→韓国（9.5%）となっている。この上位5組み合わせの合計は72.6%と1995年に比べて担い手が分散した。上位5取引の構成国・地域は、ASEANと中国が3、韓国と日本が2であった。

ASEANを国別に分類してランキングを再編すると、1995年ではシェアが低いものの、第4位がタイ→日本

（1.7%）、第5位にマレーシア→シンガポール（1.5%）、第8位にインドネシア→日本（1.3%）、第10位にベトナム→日本（1.2%）がランクインし、日本がASEANの繊維衣料完成品の主要な輸入国となっていることがわかる（表10）。

2023年になると、第2位にベトナム→日本（8.7%）、第4位にベトナム→韓国（7.8%）、第6位にベトナム→中国（3.3%）、第7位に中国→シンガポール（2.6%）、第8位にミャンマー→日本（2.5%）、第9位にカンボジア→日本（2.3%）と、多くのASEAN諸国がランクインしている。輸出国としてのベトナムの躍進、日本の輸入先が多国化していることが読み捉える。

近年の域内貿易の変化を2015年から2023年の取引の増加額からみると、第1位がベトナム→韓国、第2位がベトナム→日本、第3位がベトナム→中国と上位3組み合わせのすべてにベトナムが関与している（表10右欄）。第4位がミャンマー→日本、第5位がカンボジア→日本と低所得地域から繊維衣料完成品の域内輸出が増えていることが確認できる。さらに、第8位に中国→インドネシア、第9位にシンガポール→マレーシア、第10位に中国→フィリピンがランクインしており、上位10組み合わせのうち9つがASEAN諸国がかかわるものであり、繊維衣料完成品でのASEAN諸国のプレゼンスが一段と向上していることがわかる。

表10 東アジア域内貿易上位10取引（繊維衣料完成品）と近年の増加額

（％）

（100万ドル）

	1995			2023				2015-2023		
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	中国	香港	37.1	中国	日本	26.5	1	ベトナム	韓国	1,625
2	中国	日本	34.9	ベトナム	日本	8.7	2	ベトナム	日本	1,391
3	韓国	日本	6.1	中国	韓国	8.1	3	ベトナム	中国	893
4	タイ	日本	1.7	ベトナム	韓国	7.8	4	ミャンマー	日本	654
5	マレーシア	シンガポール	1.5	中国	香港	7.4	5	カンボジア	日本	498
6	日本	中国	1.4	ベトナム	中国	3.3	6	中国	韓国	389
7	中国	韓国	1.4	中国	シンガポール	2.6	7	中国	タイ	305
8	インドネシア	日本	1.3	ミャンマー	日本	2.5	8	中国	インドネシア	271
9	香港	日本	1.3	カンボジア	日本	2.3	9	シンガポール	マレーシア	261
10	ベトナム	日本	1.2	中国	台湾	2.1	10	中国	フィリピン	222

（注）輸入データから作成

（資料）UNCTADstat より筆者作成。

3) 各国の域内比率の変化

次に各国の域内比率の変化をみると、1995 年において域内輸出比率が高い国は、中国（61.4%）、ベトナム（56.0%）、日本（55.2%）であった。他方、域内輸出比率が最も低いのはラオス（0.7%）で、ブルネイ（3.7%）、フィリピン（9.5%）であり、ラオス、ブルネイは少額であること、フィリピンはアメリカへの輸出が多いことが、その要因としてあげられる。

これに対して、2023 年になると域内輸出比率が高い国は、韓国（66.4%）、日本（61.8%）、シンガポール（53.4%）、となっており、繊維衣服完成品では競争力を失いつつある 3 カ国の域内比率が高いことは注目される。他方、域内輸出比率が低いのはブルネイ（8.1%）、ラオス（11.1%）、カンボジア（14.7%）であるが、25%を下回る国は、フィリピン（20.3%）、タイ（21.0%）、インドネシア（22.7%）、中国（24.4%）があげられる。

一方、1995 年の域内輸入比率は、ミャンマー（98.2%）、ラオス（97.8%）、カンボジア（96.8%）が高かった。他方、域内輸入比率が低い国・地域は韓国（57.0%）、台湾（64.4%）、フィリピン（67.0%）であるが、いずれも 50% を大幅に上回っており、域内輸入が少ないというわけではない。

2023 年の域内輸入比率をみると、ミャンマー（98.4%）、ラオス（96.4%）、カンボジア（93.4%）と高い国は 1995 年と同じ顔ぶれとなった。他方、域内輸入比率が低いのは中国（39.8%）、香港（62.8%）、シンガポール（70.7%）であり、高価な繊維衣服を域外から輸入しているなどの消費の変化に着目する必要がある。

1995 年と 2023 年を比較すると、多くの国・地域が第 4 象限（域外輸出比率＞域内輸出比率、域内輸入比率＞域外輸入比率）に集中しているが、域内輸入比率が低下し、域外輸出が増加している傾向がみられる（図 6）。

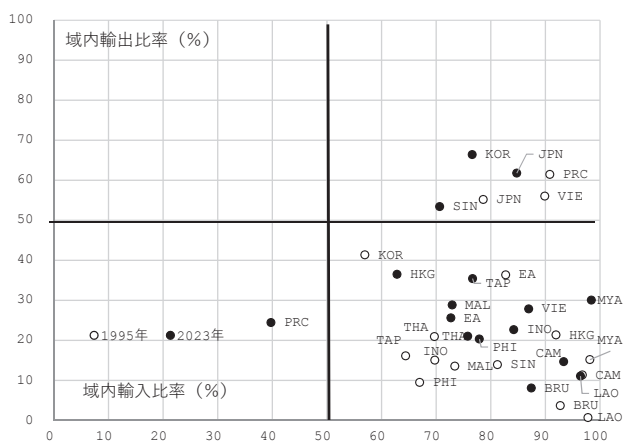


図 6 域内輸出入比率（繊維衣服完成品）

（資料） UCTADstat より筆者作成。

2. 繊維衣服関連製品の原材料

1) 域内外貿易の概要

次に繊維衣服の原材料について考察する。

東アジアの繊維衣服原材料の輸出額は 1995 年の 720 億ドルから 2023 年には 1910 億ドルに増加し、世界輸出に占めるシェアは、37.0%から 50.0%に上昇した。一方、輸入は 610 億ドルから 890 億ドルに増加し、世界輸入に占めるシェアは同期間に 32.9%から 25.8%に低下した。東アジアの繊維衣服原材料の貿易収支の黒字は 1995 年の 110 億ドルから 2023 年には 1020 億ドルへと増加した。

輸出を域内外に区分すると、域外輸出額は、1995 年の 240 億ドルから 2023 年に 1150 億ドルに増加し、他方、域内輸出額は、480 億ドルから 760 億ドルに増加した。域外輸出の増加額が域内輸出のそれを大きく上回ったことから、域内輸出比率は 1995 年が 67.2%から 2023 年に 39.8%に低下した（前掲表 2）。

輸入では、域外輸入額は 1995 年の 190 億ドルから 2023 年は 240 億ドルに増加したが、域内輸入額は 420 億ドルから 650 億ドルに増加し、域内輸入比率は 1995 年の 68.6%から 72.6%に上昇した。

担い手については、域外輸出のシェアでみると、1995 年には韓国（25.3%）、中国（20.4%）、台湾（14.1%）が高かった。これに対して 2023 年になると、中国（81.6%）が圧倒的なシェアを占めるようになり、韓国（4.5%）、ベトナム（3.1%）と 2 位以下を大きく引き離している。

一方、域内輸出については、1995 年は香港（24.1%）、中国（20.4%）、台湾（19.7%）が上位を占め、そのほか韓国（15.3%）、日本（12.1%）と北東アジア諸国・地域が高かった。それが、2023 年になると、中国（59.5%）と圧倒的なシェアを持ち、以下、ベトナム（10.1%）、台湾（7.9%）が続く。繊維衣服原材料においてもベトナムの躍進が注目される。

2) 域内貿易の内訳

次に域内貿易の内訳を各国・地域の取引額から考察する。

1995 年に取引額が最も多かったのは中国→香港（14.5%）、台湾→香港（10.1%）、台湾→中国（7.4%）、韓国→香港（7.3%）、日本→中国（6.3%）であった（表 11）。この上位 5 組み合わせは 45.6%を占め、構成国・地域は、中国と香港が 3、台湾が 2、韓国と日本が 1 であり、北東アジアに集中していたことがわかる。

これに対して、2023 年は中国→ASEAN（39.8%）が突出して多くなり、続く中国→日本（7.5%）、ASEAN→ASEAN（7.3%）、ASEAN→中国（5.8%）、韓国→ASEAN（5.5%）を大きく引き離している。この上位 5 組み合わせの合計は 65.9%と 1995 年に比べて上昇している。その構成国・地域は、ASEAN が 5、中国が 3、日本と韓国が 1 であり、ASEAN の躍進が目立つ。

表 11 東アジア域内貿易上位 5 取引（繊維衣料原材料）と近年の増加額

(%)

(100 万ドル)

	1995			2023				2015-2023		
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	中国	香港	14.5	中国	ASEAN	39.8	1	中国	ASEAN	11,255
2	台湾	香港	10.1	中国	日本	7.5	2	ASEAN	ASEAN	1,593
3	台湾	中国	7.4	ASEAN	ASEAN	7.3	3	中国	韓国	565
4	韓国	香港	7.3	ASEAN	中国	5.8	4	ASEAN	中国	562
5	日本	中国	6.3	韓国	ASEAN	5.5	5	ASEAN	韓国	499

(注) 輸入データから作成

(資料) UNCTADstat より筆者作成。

表 12 東アジア域内貿易上位 10 取引（繊維衣料原材料）と近年の増加額

(%)

(100 万ドル)

	1995			2023				2015-2023		
	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア	輸出国・地域	輸入国・地域	シェア		輸出国・地域	輸入国・地域	金額
1	中国	香港	14.5	中国	ベトナム	18.4	1	中国	ベトナム	5,388
2	台湾	香港	10.1	中国	日本	7.5	2	中国	インドネシア	1,705
3	台湾	中国	7.4	中国	インドネシア	7.1	3	中国	カンボジア	1,496
4	韓国	香港	7.3	中国	カンボジア	5.2	4	中国	ミャンマー	1,351
5	日本	中国	6.3	中国	韓国	5.0	5	ベトナム	中国	896
6	韓国	中国	5.6	ベトナム	中国	4.2	6	中国	タイ	722
7	中国	日本	4.9	韓国	ベトナム	3.4	7	中国	韓国	565
8	香港	中国	4.4	台湾	ベトナム	3.1	8	ベトナム	韓国	565
9	中国	韓国	3.5	中国	タイ	3.1	9	中国	フィリピン	447
10	日本	香港	2.7	日本	中国	3.0	10	ベトナム	カンボジア	432

(注) 輸入データから作成

(資料) UNCTADstat より筆者作成。

ASEAN を国別に分類して再編すると、1995 年には ASEAN 諸国が上位 10 組み合わせにいずれの国もランクインされていなかった（表 12）。しかし、2023 年になると、第 1 位に中国→ベトナム（18.4%）、第 3 位に中国→インドネシア（7.5%）、第 4 位に中国→カンボジア（5.2%）、第 6 位にベトナム→中国（4.2%）、第 7 位に韓国→ベトナム（3.1%）、第 8 位に台湾→ベトナム（3.1%）、第 9 位に中国→タイ（3.1%）と、ASEAN 諸国が関わる組み合わせが 7 つに増加した。

近年の域内貿易の変化を 2015 年から 2023 年の取引の増加額からみると、第 1 位が中国→ベトナム、第 2 位が中国→インドネシア、第 3 位が中国→カンボジア、第 4 位が中国→ミャンマー、第 6 位が中国→タイ、第 9 位が中国→フィリピンと、中国が ASEAN 諸国への繊維衣服原料の輸出を急増させていることがわかる（表 12 の右欄）。また第 5 位がベトナム→中国、第 8 位がベトナム→韓国、第 10 位がベトナム→カンボジアとベトナムが繊維衣服原材料の輸出国としての地位を高めている。

3) 各国の域内比率の変化

次に各国の域内比率の変化を検討する。

1995 年の域内輸出比率では香港（79.2%）、ベトナム（78.0%）、ブルネイ（77.2%）が高かった。一方、域内輸出比率が最も低いのはカンボジア（5.4%）で、ラオス（12.2%）、フィリピン（37.8%）であるが、いずれの取引額も小さい。

これに対して、2023 年になると域内輸出比率は、香港（74.4%）、台湾（68.7%）、ベトナム（68.0%）となっている。他方、域内輸出比率が低いのはカンボジア（30.4%）、ラオス（35.7%）、中国（32.5%）である。

一方、域内輸入比率は、1995 年に最も高かったのはミャンマー（97.0%）、ラオス（96.2%）、カンボジア（93.9%）となっている。他方、域内輸入比率が低い国・地域は韓国（54.1%）、日本（48.6%）、台湾（44.5%）である。

これに対して、2023 年の域内輸入比率をみると、高いものからカンボジア（98.7%）、ミャンマー（98.3%）、ラオス（95.4%）と順番は変わるが、1995 年と同じ顔ぶれである。他方、域内輸入比率が低いのは中国（39.2%）、マレーシア（70.0%）、台湾（73.4%）であり、中国以外の域内輸入比率は高い。

1995 年と 2023 年を比較すると、多くの国・地域が第 1 象限（域外輸出比率＞域内輸出比率、域内輸入比率＞域外輸入比率）に集中しているが、中国以外の国・地域では域内輸入比率を高めていることがわかる（図 7）。

電子電機の場合と同様に、第 4 象限に集中する完成品と、第 1 象限に集中する原材料の関係を検討する（図 8）。完成品の域内輸出比率と原材料の域内輸入比率の関係を 1995 年と 2023 年についてプロットすると第 4 象限に集中し域内から部品を調達し、域外に完成品を輸出する構造にある。1995 年に比べて 2023 年は域内輸入比率が高

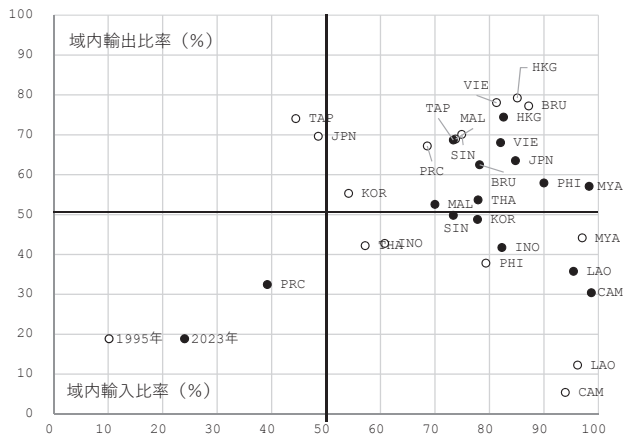


図7 域内輸出入比率（繊維衣服原材料）
（資料） UCTADstat より筆者作成。

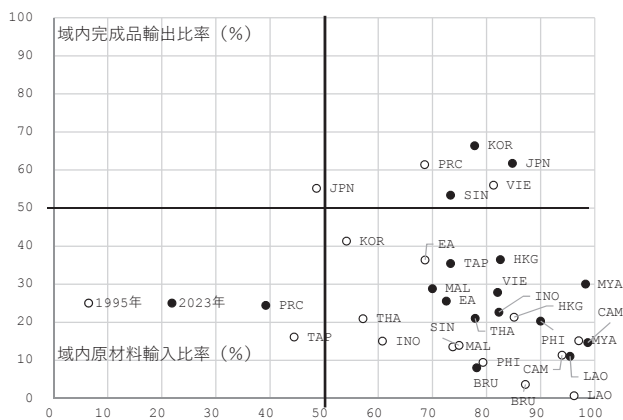


図8 域内輸出入比率
（繊維衣服完成品輸出と原材料輸入）
（資料） UCTADstat より筆者作成。

まっており、電子電機の場合と同様に繊維衣服においても域内の生産ネットワークが強化されている。

第5節 本稿のまとめと今後の課題

本稿では、1995年と2023年の域内貿易データを整理することで、域内貿易における中国とASEANの台頭と日本の後退を明確に確認することができた。またASEANのなかではベトナムの躍進と、カンボジアの加工貿易の胎動などを見いだすことができた。ただし、今回の対象品目は、全品目、電子電機関連製品、繊維衣料関連製品の3つであり、域内貿易の評価には、ほかの製品も対象に検討する必要がある。そこでは、日本の輸出の主力である自動車はもちろん、日本のほとんど競争力のない鉱物資源や農産物・食品などの分析も、東アジアの持続的成長を考える上では重要となる。

また、今回は1995年と2023年の2時点であったが、時系列に評価し、それぞれの変化の分岐点を見定めることも重要である。その際には直接投資の動向や各国の誘致政策などにも配慮する必要がある。さらに、今回、完

成品と部品に区分して東アジア域内の分業体制を捉えようとしたが、具体的なサプライチェーンを描くためには、さらに詳細な品目データによる整理・分析が必要となろう。これらは今後の課題としたい。

参考文献

- 石川幸一・清水一史・助川成也編（2009）『ASEAN 経済共同体 東アジア統合の核となりうるか』
- 大泉啓一郎（2024）「人口動態から ASEAN 経済を展望する 人口ボーナス・経済統合・デジタル化」林田秀樹編『ASEAN の連結と亀裂 国際政治経済のなかの不確実な進路』晃洋書房
- 大泉啓一郎・後藤健太（2018）「アジア化するアジア」遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編『現代アジア経済論』有斐閣ブックス
- 大泉啓一郎・宮島良明（2023）『中国と対 ASEAN 貿易の新局面』亜細亜大学アジア研究所『紀要』第49号 p.1～12
- 大野健一・桜井宏二郎・伊藤恵子・大橋英夫（2024）『新・東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ
- 経済産業省『通商白書』各年度版
- 末廣昭（2014）『新興アジア経済論』岩波新書
- 宮島良明・大泉啓一郎（2008）『中国の台頭と東アジアの域内貿易 World Trade Atlas（1996-2006）の分析から』東京大学社会科学研究所

表 13 東アジア諸国・地域の域内比率（1995 年）

（％）

	全品目		電子電機関連製品				繊維衣料関連製品			
			完成品		部品		完成品		原材料	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
ブルネイ	94.8	65.4	62.4	82.8	52.8	42.6	3.7	92.7	77.2	87.2
カンボジア	69.8	87.9	52.0	98.7	81.2	47.9	11.4	96.8	5.4	93.9
インドネシア	59.1	55.0	28.4	65.6	76.1	56.9	15.0	69.8	42.7	60.8
ラオス	57.8	87.0	0.0	96.8	2.4	60.5	0.7	97.8	12.2	96.2
マレーシア	54.3	58.7	34.9	69.2	51.4	63.1	13.6	73.4	68.9	73.8
ミャンマー	66.5	89.0	48.4	97.1	87.5	63.3	15.2	98.2	44.1	97.0
フィリピン	41.1	51.5	56.6	78.5	42.8	55.1	9.5	67.0	37.8	79.4
シンガポール	55.0	61.3	27.5	79.3	54.0	76.1	13.9	81.2	70.1	74.9
タイ	50.4	56.2	50.9	63.8	59.1	64.6	20.9	69.7	42.2	57.2
ベトナム	63.0	74.1	85.8	84.0	84.8	72.6	56.0	89.9	78.0	81.3
中国	56.9	54.9	40.3	76.6	69.4	66.1	61.4	90.8	67.2	68.6
香港	50.6	73.8	28.4	92.6	61.4	77.9	21.3	92.0	79.2	85.1
台湾	51.2	48.4	26.1	74.8	45.7	70.2	16.1	64.4	74.0	44.5
韓国	47.0	39.6	21.9	53.5	50.4	58.5	41.4	57.0	55.3	54.1
日本	42.4	35.4	21.2	64.2	47.8	50.9	55.2	78.6	69.6	48.6
東アジア	49.2	51.5	28.1	76.0	51.8	67.0	36.4	82.8	67.2	68.6

（資料） UNCTADstat より筆者作成。

表 14 東アジア諸国・地域の域内比率（2023 年）

（％）

	全品目		電子電機関連製品				繊維衣料関連製品			
			完成品		部品		完成品		原材料	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
ブルネイ	71.1	50.9	74.6	86.7	54.3	76.4	8.1	87.4	62.5	78.2
カンボジア	31.4	93.3	5.6	92.9	7.4	98.0	14.7	93.4	30.4	98.7
インドネシア	61.4	64.9	47.6	93.7	56.7	93.2	22.7	84.2	41.7	82.3
ラオス	84.7	95.7	42.0	97.7	59.7	95.8	11.1	96.4	35.7	95.4
マレーシア	62.2	64.8	43.8	92.0	69.7	80.0	28.8	73.0	52.6	70.0
ミャンマー	65.2	89.0	20.3	97.9	89.5	88.7	30.1	98.4	57.1	98.3
フィリピン	64.7	72.8	40.7	91.6	68.2	82.0	20.3	77.9	57.9	90.0
シンガポール	63.5	60.2	55.4	81.0	81.7	90.9	53.4	70.7	49.8	73.4
タイ	52.2	62.8	36.7	93.5	55.4	88.2	21.0	75.8	53.7	77.9
ベトナム	44.8	76.1	38.0	93.8	46.4	87.4	27.9	86.9	68.0	82.0
中国	34.7	40.2	27.4	91.1	52.5	90.0	24.4	39.8	32.5	39.2
香港	72.0	76.3	55.5	92.0	78.4	94.0	36.5	62.8	74.4	82.6
台湾	68.4	57.4	17.9	88.9	84.2	89.0	35.4	76.7	68.7	73.4
韓国	47.4	46.1	24.5	90.6	76.3	89.8	66.4	76.6	48.8	77.8
日本	49.2	46.5	35.6	90.5	77.1	88.3	61.8	84.8	63.5	84.8
東アジア	47.4	52.8	32.0	90.6	67.6	90.1	25.6	72.7	39.8	72.6

（資料） UNCTADstat より筆者作成。